

子どもの自主性, 連帯感, 実践力を育てる集団活動のあり方
—児童会の集会活動をととして—

浦添市立宮城小学校

山 城 ヒロ子

目 次

I	テーマ設定の理由	1
II	研究の目標	1
III	研究の仮説	1
IV	研究の全体構想	2
V	研究内容	3
1	特別活動における児童会活動の役割	3
2	児童会活動と兄弟学級の取り組み	4
(1)	兄弟学級で取り組む意義	4
(2)	児童会活動の組織	5
(3)	児童会活動の取り組み形態	6
(4)	本校の児童会集会活動計画	7
3	児童会活動の効果的な運営	8
4	児童会活動の評価の工夫	8~9
VI	具体的な実践事例	10
1	「勤労感謝のつどい」の取り組み	10
(1)	取り組むにあたって	10
(2)	指導の過程	11
(3)	ねらい	11
(4)	日 時	11
(5)	場 所	11
(6)	内 容	12
(7)	方 法	12
(8)	準備するものと兄弟学級分担	12
(9)	プログラム	13
(10)	取り組み日程	14
	実践の風景	15
(1)	取り組みの反省	16
2	「学校をきれいにしよう」の取り組み	16
(1)	取り組みのねらいと方法	16
(2)	兄弟学級で取り組む意義	17
(3)	反 省	18
VII	研究のまとめと今後の課題	19
1	研究のまとめ	19
2	今後の課題	19~20
	《参考文献》	

子どもの自主性、連帯感、実践力を育てる集団活動のあり方

— 児童会の集会活動をとおして —

I テーマ設定の理由

これからの教育において、国際化や情報化、価値観の多様化など、変化の激しい社会の中で、一人一人の子どもが個を生かしながら、人間らしく主体的に、創造的に生き抜くことのできる資質や能力の育成が求められている。

しかし、現在の子どもたちを取り巻く社会環境は必ずしも好ましい状況とはいえない。子どもたちは、塾や習い事に追われ時間的な余裕がなく遊ぶことさえも制限されがちである。また、かつては、兄弟姉妹の多い大家族の中で、また、地域の自然発生的に集まってきた遊び仲間との遊びを通して、自然に身につけてきた協調性や社会性、連帯感、実践力などが、核家族化、兄弟姉妹の減少、遊び仲間の減少など社会構造の変化に伴って、だんだんと狭小になっている。そのため、人間関係も希薄になり、社会性や連帯感、実践力を培う場が少なくなっている。

そのような中で、「集団活動を通して、個性の伸長をはかるとともに、児童の主体性、創造性を高め、自主的、実践的な態度を育成する」ことを目標にしている特別活動の果たす役割は大きい。とりわけ、「児童の発意、発想を生かした自発的、自治的な活動」「児童自らが問題に気づき、解決していくために計画・実践していく活動」などを特質とする児童会活動は、新しい学力観で求められている「個性の尊重」「自己教育力の育成」を育む上からもその役割は大きいといえる。

そこで、次の

- ① 児童会活動のあり方や兄弟学級取り組みのもつ意味を明らかにする。
- ② 代表委員会・学級・兄弟学級・各委員会とのかかわりを明らかにする。
- ③ 取り組みの方法や教師の指導・支援のあり方を工夫する。
- ④ 児童会活動の評価を明らかにする。

ことによって、子どもたちに自主性、連帯感、実践力を育てる集団活動のあり方がみえてくるのではないかと思い、本テーマを設定した。

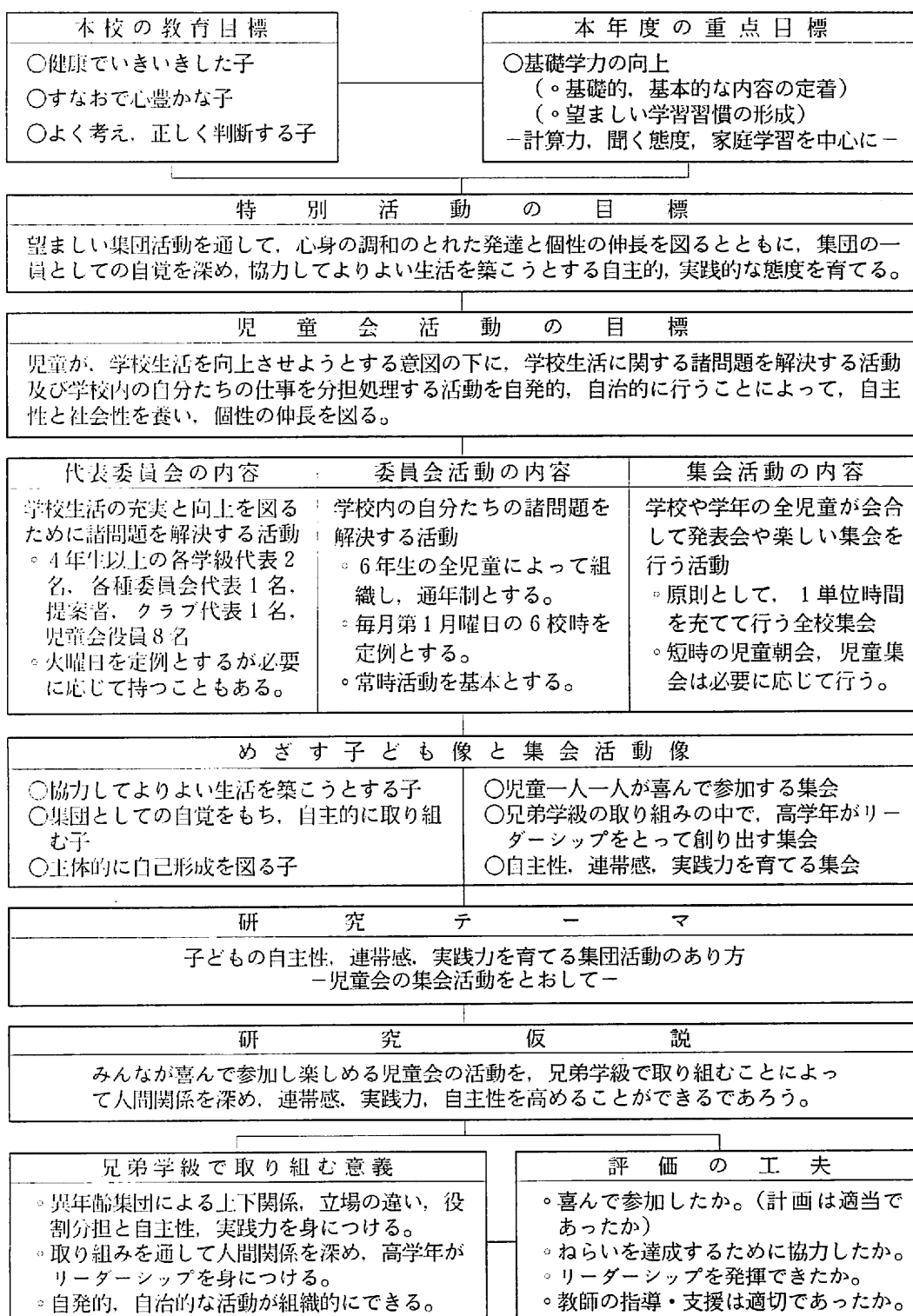
II 研究の目標

- 児童会の集会活動を、代表委員会・兄弟学級・学級・各種委員会とのかかわりを明らかにし、具体的な取り組みを工夫することによって、子ども個々に自主性、連帯感、実践力を育てる。
- 児童会活動を兄弟学級で取り組むことの意義を明らかにするとともに、教師の指導、支援のあり方と評価のあり方を工夫する。

III 研究の仮説

子どもたちが喜んで参加し楽しめる児童会活動を、兄弟学級や学年・委員会との具体的な取り組みとかわらせて工夫していけば、その取り組みを通して人間関係を深め、協調性、自主性、連帯感、実践力を高めることができるであろう。

IV 研究の全体構想



V 研究内容

1 特別活動における児童会活動の役割

仲間集団が、兄弟の少ない家庭でも地域の遊び仲間の中でも狭小となり、集団活動が成り立たなくなっている現状のなかで、集団活動を通して人間形成を目指す特別活動の果たす役割は大きい。学習指導要領によると特別活動の目標は「望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図るとともに、集団の一員としての自覚を深め、協力してよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。」と示されている。

「心身の調和のとれた発達や個性の伸長」「望ましい人間関係の育成」「集団の一員としての自覚」「協力してよりよい生活を築こうとする態度の育成」は、各教科、道徳教育なども含め教育活動全体を通して指導されていくものであるが、特別活動は、それらを集団活動を通して児童が自ら実践していく教育活動であり、これからの指導には、児童の実践しようとする意欲や態度を育成していくことに重点が置かれなければならない。また、自主的に活動させるためには、活動内容の工夫は勿論のこと、児童の実践する活動への興味、関心、意欲を高めるような支援のあり方を工夫することも大切である。

かつては、地域の中で自然発生的に集まって出来た仲間集団のなかで体験してきた強い者が弱い者を助ける体験や仲間集団固有の行動様式の伝授、集団の規範などが、最近はほとんど体験できなくなり、児童期に体得しなければならない対人への接し方や態度などが欠落しがちである。しかし、そういう体験は、学級の枠を越えた学校全体の集団活動つまり兄弟学級の取り組みを通して育むことができるし、その取り組みのなかで、児童は協調性、社会性など、人間として必要な様々なことを身につけることもできる。

また、近年、多種多様な価値観の違いをもつ社会のなかで、多様な個性をもつ子どもが増えつつあり、この変化の激しい社会情勢の中で生き抜くことのできる能力の育成が求められている。そのために学校教育においては、子ども一人一人の異なる興味、関心、能力、適性のよさや可能性を発揮させ、よりよい生活をするために自ら考え主体的に判断していく資質や能力の育成が重要である。そのような中で、「児童の発意、発想を生かした自発的、自治的な実践活動」「集団の一員としての自覚を高め、好ましい人間関係を育てる活動」「児童自らが問題に気づき、解決していくために計画、実践していく活動（自己教育力の育成）」「異年齢の児童が協力して活動していく集団活動」を特質とする児童会活動の果たす役割はより大きい。

それだけに、児童会活動の特質を生かすための各学級での発達段階に即した教師のきめ細かな指導が不可欠であると同時に、教師の支援のあり方も重要である。つまり、異年齢集団の中での触れあいや協力、意志や意欲によって問題を解決していく体験、創造していく体験、支え合う体験、創意工夫する体験、共に汗を流す体験ができるように支援していくことが、今後、指導するとき特に求められる。

2 児童会活動と兄弟学級の取り組み

(1) 兄弟学級で取り組む意義

1年生から6年生までの集う小学校の学校教育の中で、異年齢集団を組んで諸問題を解決したり、行事を成功させるために協働して創り上げたり集団活動で取り組むことができるのは児童会活動である。その児童会活動を進める時、低学年と高学年の間には5～6歳の年齢差があり、発達段階の違いや経験の違いから、一色単にして役割や仕事を分担していくのには無理がある。

全校的な視野に立って物事を見つめることのできる高学年がリーダーとなり、企画したり役割分担や低学年をリードして自主的に活動をしていくような児童会の活動を数多くもつことによって、集団の中に信頼感が生まれ仲間意識・連帯感も育っていく。

特別活動の大きなねらいである「望ましい集団活動を通して、児童の自主的、実践的な態度の育成を図る。」は、児童会活動に課される部分が大きいといっても過言ではない。

児童会活動の内容として次のことが上げられる。

① 代表委員会の活動

「自分たちの学校生活を充実向上させようとする意図のもとに、学校生活に関する諸問題を話し合い、その解決を自発的、自治的に行う活動」

◦構成——4年生以上の各学級代表、各委員会代表（クラブ代表が参加することもある）

◦活動——全校的な立場に立って話し合い実践する。

② 委員会活動

「学校生活を向上発展させ、より豊かなものにしていくために学校内の自分たちの仕事を分担し、処理する実践活動」

◦構成——高学年児童が主として当たる。

◦活動——組織的、計画的、継続的な活動を児童の発意・発想を尊重し、創意工夫して取り組む。

③ 児童会集会活動

「児童会の主催で行われるもので、児童が自分たちの学校生活を豊かな楽しいものにするため、児童のさまざまな活動状況の報告や連絡、レクリエーションなど、児童が自発的、自治的に行う活動」

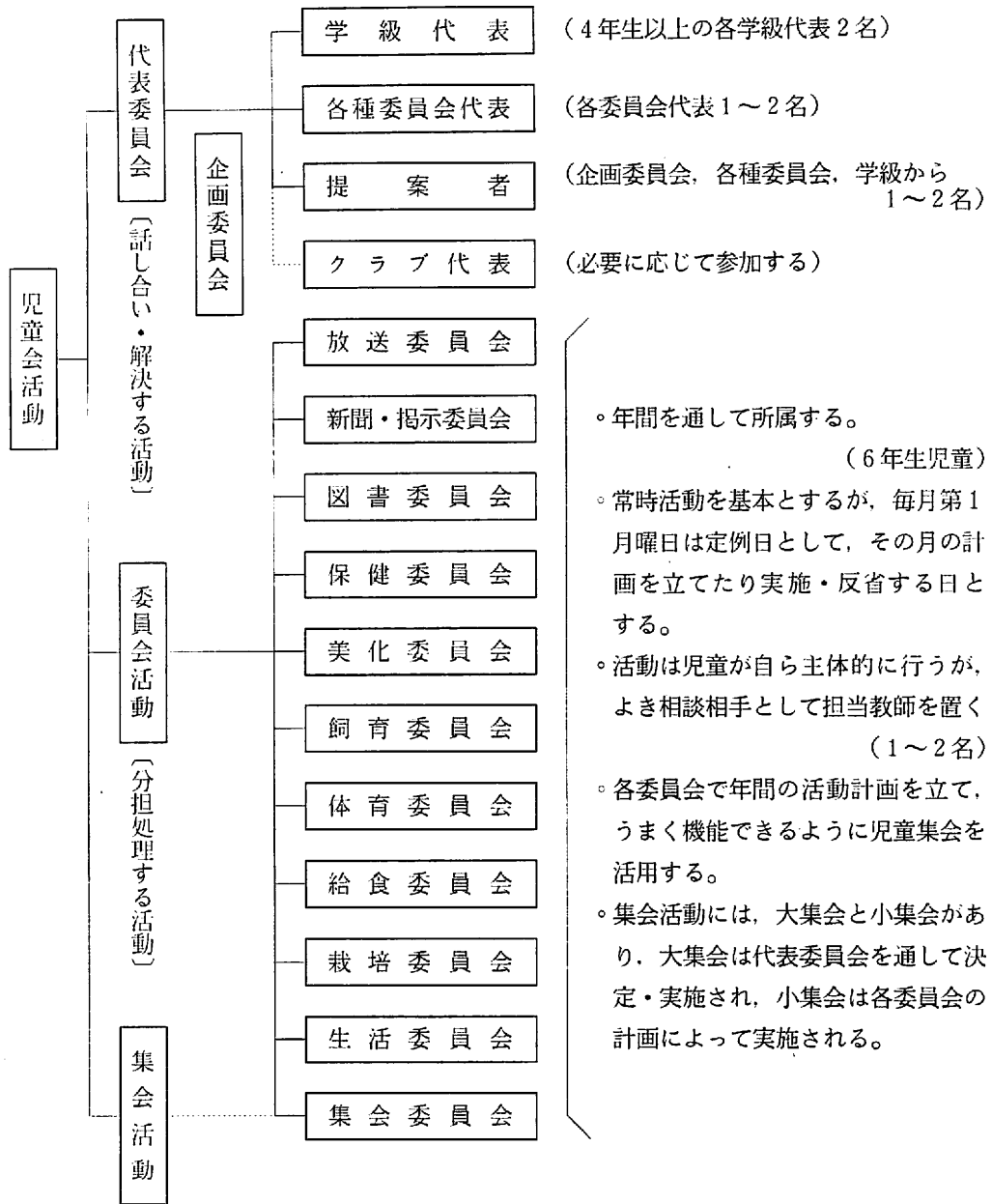
◦構成——全校児童

◦活動——代表委員会が中心になって行う大集会と各委員会が計画して行う小集会がある。

代表委員会で話し合い、決定されたことは実践へと移されるが、その取り組み過程で委員会を中心にして取り組んだり、兄弟学級で取り組んだりとならによって取り組み方法は違う。兄弟学級で取り組むのは、全校児童が直接関わって創りあげていかなければならないような内容の行事や活動で、大方の取り組みは全校児童が直接関わるものが多いので兄弟学級取り組みということになる。児童会活動の殆どを兄弟学級で取り組むということは、仲間意識を高め、連帯感、自主性、リーダー性、実践力をつけ、「自発的、自治的な能力の育成を図る」上で、意義が大い。

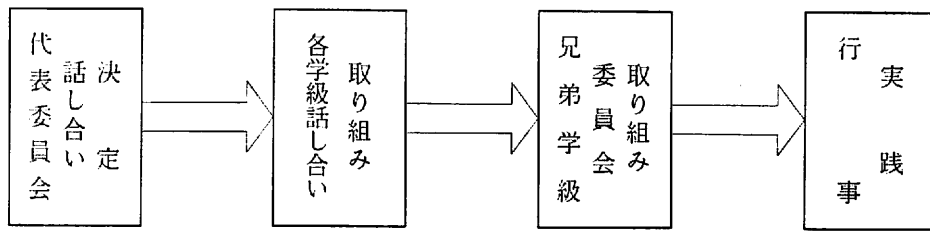
(2) 児童会活動の組織

＜組織＞



児童会活動を大別すると、校内の諸問題や諸案を話し合い解決する代表委員会活動と仕事を分担処理する委員会活動、児童会が主催して行う集会活動があり、それぞれが互に関連をもちながら活動を展開していくことが大切である。それに、どれも児童の自発的、自治的な活動として行われるものであるだけに、児童の発意、発想を大事にしながら、教師の適切な指導と支援の下で計画的、独自的に取り組まなければならない。

(3) 児童会活動取り組み形態



学校生活は、異年齢の子どもの集団であり、多種多様な価値観をもつ子どもの集団であるだけにいろいろな行事やいろいろな活動があると同時に、また、多様な問題も起こりうる場所である。その多様な問題の中で、児童会として取り上げ解決していきけるものや学校生活をより豊かにするために取り組んでいくものがある。そのような問題の解決、集団間の連絡調整、行事や活動のねらい及びその実施方法等についての審議が代表委員会で行われる。

代表委員会には、高学年の各学級の代表や各種委員会の代表が参加しており、そこで児童の自由な発意、発想が出され討議・決定されていく。また時には、提案された事項が、各学級に持ちかえられ話し合われて、学級の意見として代表委員会に出され討議されていくこともある。決定されたことは、各学級や各委員会に報告され、学級として・兄弟学級として・各委員会の活動として、具体的に取り組みされていくのである。

その取り組みの中で、児童会活動のねらいである「自発的、自治的活動」が育まれていくのであるが、それは児童だけの力で創り出していきけるものではなく、教師の適切な指導がなければ育つものではないので、各学級での指導・学級での活動が大きな鍵になるとも言える。また、児童会活動は、全校児童で取り組む活動であるだけに担当教師だけに任せられるものではなく、ねらいを達成するには全教師が共通理解をして、指導に当たらなければならないのは言うまでもないことである。

教師のかかわり方として、次のことがあげられる。

- ① 職員会議——提案に対して質疑・意見・決定する
- ② 代表委員会——学級代表に大まかな内容を話す
- ③ 学級報告——補足説明をする（理解を深める）
- ④ 学級での取り組み——助言・支援する
- ⑤ 反省——児童個々の評価をする

このように考えていくと、児童会活動の取り組みは全児童、全教師によって取り組まれていると言える。

(4) 本校の児童会集会活動計画

学期	月	大集会活動	時間	小集会活動
1	4	一年生を迎える会（入学式当日）	1	児朝（企画委員会）
	5	こいのぼり集会	2	児朝（集会委員会）
	6			児朝（保健委員会）
	7			児朝（集会委員会）
2	9			児朝（図書委員会）
	10			児朝（体育委員会）
	11	勤労感謝のつどい	1	児朝（集会委員会）
	12			児朝（美化委員会）
3	1			児朝（栽培委員会）
	2	児童会役員選挙		児朝（企画委員会）
	3	六年生を送る会	2	児朝（集会委員会）

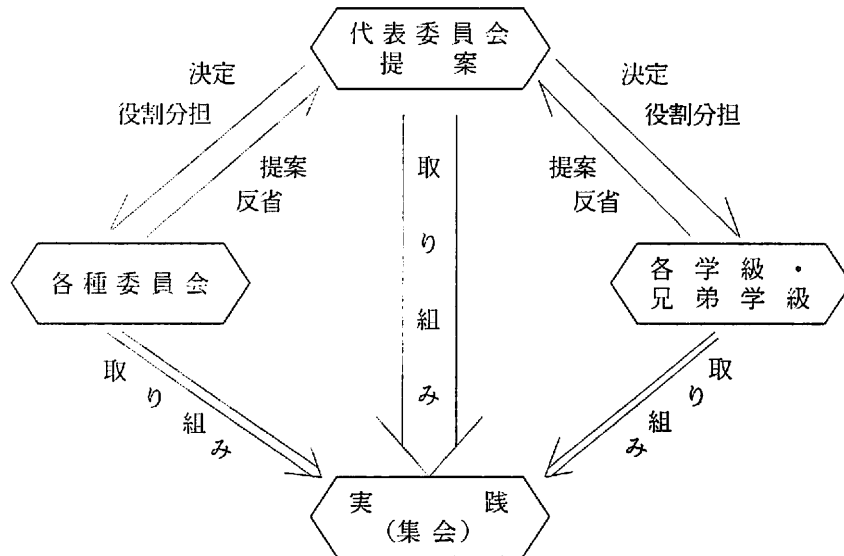
集会活動は、単位時間（1～2）を必要とする大集会と10～20分で行う小集会があるが、大集会は、3週間から4週間をかけて各学級での話し合いを経て取り組まれ、具体的な方法で個々の児童が協力して活動し創り上げていくもので、兄弟学級取り組みでより効果的に集団活動の良さが発揮できるものである。

本校の大集会活動を見ると、「一年生を迎える会」は、入学式当日に行われるので前年度の学年末に取り組まなくてはならないので、学年割り当てで仕事や係りを分担して取り組みをしている。それに「こいのぼり集会」「勤労感謝のつどい」は、時間的に指導ができるので兄弟学級取り組みが最適である。また、「六年生を送る会」は、学年、兄弟学級、各種委員会とそれぞれの良さをだして取り組みができる活動内容であるので、学年として、兄弟学級として、委員会として取り組むことができる。「児童会役員選挙」は、高学年の選挙管理委員会の取り組みで、実施時間もゆとりの時間からとられているので、本校の集会活動の実施時間は、年間6時間ということになる。

3 児童会活動の効果的な運営

児童会活動には、三つの活動がある。代表委員会活動、各種委員会活動、児童集会活動のこれらの活動が、それぞれの機能を十分に発揮しながら互いに補完し調和した活動ができると、児童会活動の目標を達成したより効果的な運営ができる。

図にすると



このように、各学級や各種委員会、企画委員会から出てきた諸問題・提案事項は代表委員会で討議・決定され、各学級や兄弟学級、各種委員会で役割分担されて具体的に取り組みられていく。その取り組みの中で、高学年と低学年の望ましい人間関係が深まり、リーダー性、自主性、実践力が培われていくのである。それと同時に、児童の発意・発想を大切にされた教師の適切な指導と支援があれば、児童はのびのびと活動に参加し積極的に取り組んでいくことができる。故に、それぞれの活動が互いに関連しながら補い合い質的により高いものを創り上げていく。すると、児童会活動は効果的な運営が行われているということになる。

4 評価の工夫

特別活動は、「望ましい集団活動」を通して展開される“なすことによって学ぶ活動”といわれる。一人一人の子どもは、学級活動や児童会活動において発達段階や集団の特性に応じて自分の役割を果たし、互いに協力して活動する中で、集団の一員としての自覚を深め意欲的に取り組んでいく。このような子どもたちの集団活動を特質とする特別活動において、評価はどうあればよいだろうか。

特別活動は、実践的な集団活動を通して子どもたちに好ましい人間関係を育て、集団への所属感・連帯感を高め、自主性と社会性を養うなど子どもたちの人間形成に深く関わる活動であるだけに、評価を考えると活動の成果についての評価だけでなく、子ども一人一人が友だちとどのように関わり協力して取り組んでいたかの活動の課程を重視する必要がある。

成田國英・他3名編の「小学校新しい特別活動の指導と評価」(P5)によると、特別活動の評価を次の4つの観点から上げている。

『ア 指導計画に関して

特別活動の全体の指導計画や各種の計画について、目標がどの程度達成されたかを明らかにし、効果的な指導のあり方を検討するために行う。

イ 指導方法に関して

特別活動においては、各教科や道徳の指導方法と異なり、「望ましい集団活動」を助長し、子どもたちの自主的な活動を温かく見守ることが大切であり、実際に行われた指導方法が適切であったかどうかについて行う。

ウ 集団の変容に関して

各内容において展開される集団活動の望ましさの程度や集団の変容などを知るために行う。

エ 個人の変容に関して

特別活動の目標にかかわる関心・意欲、態度、思考・判断などについて、一人一人の子どもの状況や変容などを知るために行う。

これらは、学級活動や児童会活動、クラブ活動、学校行事などの評価にも当てはまり、評価の対象や評価の目的、立場に応じて、さらに細かく分けて評価される。』と書かれている。このことから考えていくと、評価の視点は、取り組む内容によって活動の方法が違うのでおのずと違うことになる。

児童会活動の特質である「児童の自発的、自治的な実践活動」は教師の適切な指導によってより効果が得るものであるから、学校の計画と教師の指導のあり方及び児童の実践活動の評価をしていくことが望ましい。

児童会活動の指導計画の評価の観点として、次のことが考えられる。

- ① ねらいは、児童の願いが活かされているものであったか。
- ② 指導計画は具体的で、教師の指導や助言は児童の自発的、自治的な活動を進める上で適切であったか。
- ③ 児童一人一人の特性を生かすように、低学年のことも考慮して全校的な視野に立った計画が立ててあったか。
- ④ 全教師で責任をもって、分担、協力し指導にあたったか。
- ⑤ 児童の意欲を大切に、発達段階に合った指導がなされていたか。

児童の活動過程の評価の観点としては、次のことが考えられる。

- ① 児童自らが主体的にとらえ、意欲的に活動できたか。
- ② 友達と協力して取り組むことができたか。

などであるが、児童会活動の評価は、児童の実践活動の実態にあわせてしなければならないので、固定した評価方法よりもいろいろな方法をとりながら、実践の過程を大切にしながら行うようにすることが大切である。

VI 具体的な実践事例

1 「勤労感謝のつどい」の取り組み

(1) 取り組むにあたって

これまでも、児童会による集会活動をいくつか取り組んできたが、代表委員会のようすや取り組みが他の児童に理解されていなかったり、児童会が機能的に動けず、実践的意欲に欠ける面がみられたり、児童個々のもっている良さが発揮されないなどを感じた。

そこで、たて割集団（兄弟学級）をより機能的に動かすことによって、6年生を中心とした自主的、実践的な取り組みができないものかと考え、兄弟学級による取り組みを強調することにした。その取り組みによって、6年生のリーダーとしての意識が高まり、低学年と高学年が協力していっしょに活動することで信頼関係が生まれ、連帯感や実践力が育ち、よりよい人間関係が高められるようにしたい。

① 題材について

「勤労感謝のつどい」は、今年で3回目を迎えるが、わたしたちの生活は、多くの人々の仕事によって支えられていることを知るとともに、感謝する気持ちを培ういい機会である。また、自分の父母の仕事にも興味関心を持ち、家庭生活のうえでも進んで協力していく気持ちをもたせるのに意義深いものである。

② 児童について

明るく集会行事の大好きな児童が多く、いつも楽しく参加しているが、これまでの児童集会活動をみると、児童自らの行動に主体性がなく実践意欲に欠ける面がみられた。そこで、兄弟学級での取り組みと広報活動を広げることによって、どの児童も活動の内容を主体的にとらえ、自分たちで工夫した行事、楽しい参加の仕方がわかるものとする。

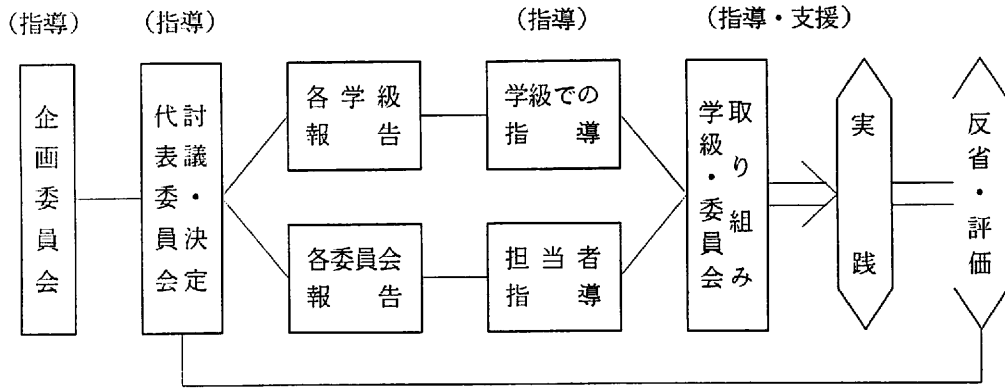
③ 指導について

ア. 代表委員会を数多くもつことにより、6年生を中心とした兄弟学級の取り組みが具体的にできるようにしていく。

イ. 児童会役員たちに広報活動を数多くさせることにより、他の児童への代表委員会の取り組み理解を図るとともに、全校児童の活動への意識を高める。

ウ. 全児童が児童会活動を主体的にとらえ喜んで参加できるように、各学級での指導と話し合い活動・取り組み活動を重視する。

(2) 指導の過程



行事のねらい・方法等については、各学級担任が指導し理解させて、個々の児童が主体的に活動できるようにするとともに、実践過程での適切な指導と助言を工夫していけば、全校児童で楽しい集会を創り上げることができる。

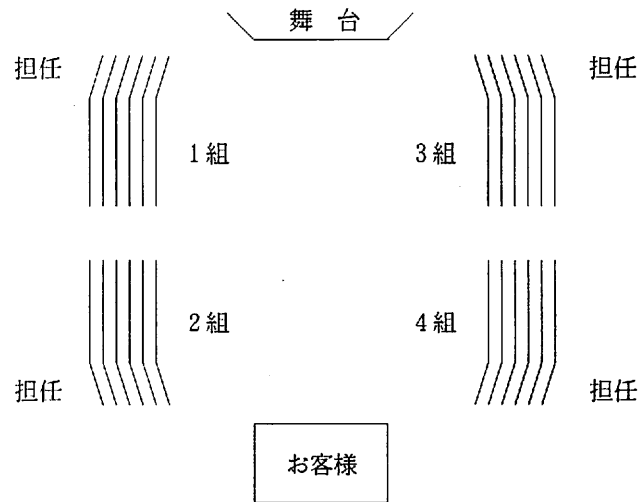
(3) ねらい

- 口頭、お世話になっている先生方や給食センターの方々、警備のおじさん、PTA役員の方々に感謝の気持ちを示すとともに、わたしたちの生活は多くの人々の仕事によって支えられ、成り立っていることを考える機会にする。
- 兄弟学級の取り組みを意図的に組むことによって、児童個々の連帯意識を高め、良さを生かした取り組みができるようにする。

(4) 日時 11月22日(火) 2校時(移動 9:20~9:35 開始 9:40)

(5) 場所 体育館

《隊形》



(6) 内 容

かべかけよせ書き	みんなで踊ろう	感謝のことば
仕事しらべ発表	歌「野に咲く花のように」	(呼びかけコール)
クイズ	あいさつ	

(7) 方 法

- ① たて割の兄弟学級で取り組んでいく。
- ② 兄弟学級で取り組むことは、クイズ、仕事しらべ発表、感謝のことばづくり、よせがきづくりなどで、6年生が中心になって指導し取り組んでいく。
- ③ かべかけよせ書きは、1年生～3年生は担任の分を作り、4年生～6年生は担任の分と他2～3個を分担して作る。
- ④ 感謝のことばは、各パートを兄弟学級で作し、つなぎ合わせて一つの文にする。それをパートごとにそれぞれの兄弟学級でコール方式でよびかけする。
- ⑤ 整列、プレゼント渡し、コールの時の世話は、6年生が中心になって兄弟学級です。
- ⑥ プレゼントづくりやよびかけコールの練習、みんなで踊ろうのダンスの練習は、できるだけ担任の先生方の手をわずらわせず、6年生を中心に児童だけで行う。
- ⑦ 全学級とも、高学年を中心にした取り組みがスムーズにいくように時間的な配慮をする。
- ⑧ 会場や道具の準備は、前日に4年生以上の代表委員で分担して行う。
- ⑨ 行事のねらいや取り組み方法等については、各学級で担任が指導し理解を図り、個々の児童が主体的に活動できるようにする。

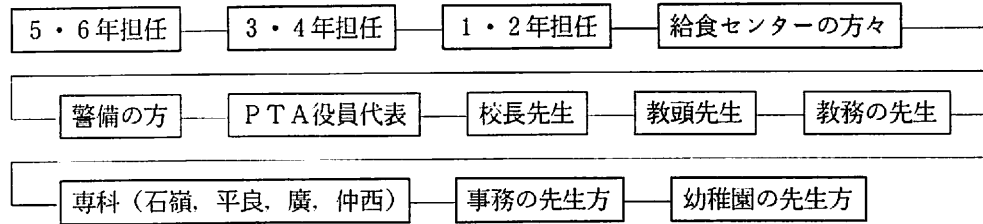
(8) 準備するものと兄弟学級分担

- かべかけよせがきづくりとプレゼント渡し……各学級
(兄弟学級で教え合って分担してつくる……1～3年は1つ、4～6年は3つ)
- クイズ……(2)組 兄弟学級
- 仕事しらべ、発表
学校生活に関する……(3)組 兄弟学級
家庭生活に関する……(1)組 兄弟学級
- 歌詞を書く、指揮……(4)組 兄弟学級
- 花アーチの準備、片づけ……4年、5年の代表委員
- 感謝のことばを書く、よびかけ指揮……児童会役員
- みんなで踊ろうの指導……児童会役員
- 感謝のことばづくり……各兄弟学級と児童会役員
- 放送の準備……放送委員会
(入退場曲テープ、歌の曲テープ、ダンスの曲テープ、マイク2本)
- 体育館の片づけ……体育委員会

(9) プログラム

〔 9:20～35 全児童所定の位置につき、座って待つ。〕
花アーチの準備（4年生、5年生の代表委員）
9:40 開始

① 先生方の入場……………手拍子で迎える

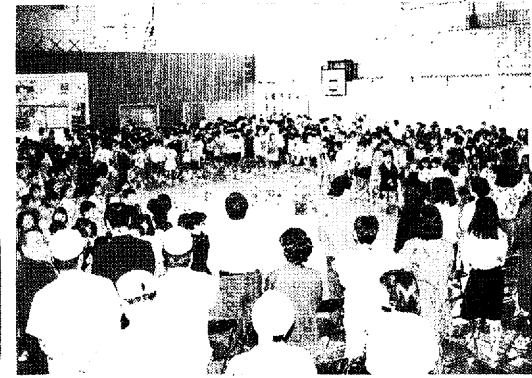
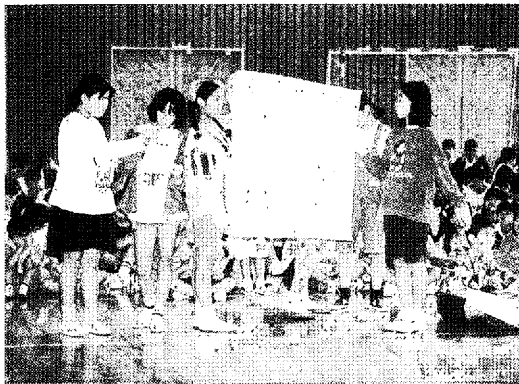
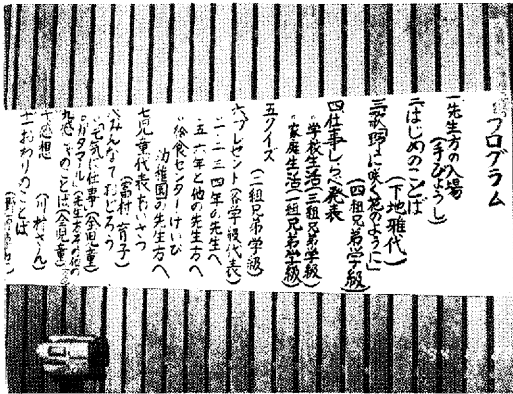


- ② 始めのことば……………（児童会役員）
- ③ 歌「野に咲く花のように」……………（4組兄弟学級）
- ④ 仕事しらべ発表
- 学校生活にかかわる仕事……………（3組兄弟学級）
 - 家庭生活にかかわる仕事……………（1組兄弟学級）
- ⑤ クイズ……………（2組兄弟学級）
- ⑥ プレゼント……………（各学級代表）
- 1, 2, 3, 4年の担任へ
 - 5, 6年担任, その他の先生方へ
 - 給食センターの方, 警備の方, PTA役員の方, 幼稚園の先生方へ
- ⑦ 児童代表あいさつ……………（児童会役員）
- ⑧ みんなで踊ろう……………（児童会役員）
- 「元気に仕事」……………（児童だけ）
 - 「カタマール」……………（先生方, その他の方々）
- ⑨ 感謝のことば……………（児童会役員, 各兄弟学級リーダー）
- ⑩ 感想……………（お客さんの方から1人）
- ⑪ 終わりのことば……………（児童会役員）
- 感謝のことば —
 - 先生方へ（授業や行事をとおして）……………（3）組兄弟学級
 - 事務の先生方へ……………（1）組兄弟学級
 - 給食センターの方へ……………（2）組兄弟学級
 - 警備の方, PTA役員代表の方へ……………（4）組兄弟学級
 - つなぎことば……………児童会役員

(10) 取り組み日程

日	曜	児童会の取り組み	兄弟学級の取り組み	学級取組み
20	木	企画委員会で計画の打ち合わせ		
21	月	職員会議に提案		
25	火	原案を書く		
26	水	印刷		
27	木	代表委員会で提案		
28	金	代表委員会ニュース①発行		学級へ報告
31	月	横幕づくり		↓
1	火	↓		話し合い
2	水	↓		↓
3	木	↓		
4	金	代表委員会（係り分担決定）	兄弟学級打ち合わせ	
5	土	代表委員会ニュース②発行		報告
7	月	兄弟学級の取り組み	よせがき作りを各学級で	学級取組み
8	火	代表委員会（取り組みの確認）	↓ 教える	↓
9	水	代表委員会ニュース③発行	クイズ、仕事しらべ、歌詞作り	↓
10	木	代表委員会（取り組みの確認）	兄弟学級の取り組み	学級取組み
11	金		↓	↓
12	土		↓	↓
14	月	感謝のことはづくり	歌「野に咲く花のように」	歌の練習
15	火	↓ 代表委員会（仕事確認）	↓ 練習	↓
16	水	ダンス・感謝のことはの練習（体育館で 1:30～2:00）		
17	木	↓ 代表委員会（仕事確認）	各兄弟学級で準備の確認（6年）	
18	金	プレゼント係り打ち合わせ	1年生～6年生の各学級代表	
19	土	プログラムづくり		
21	月	前日準備（3:30～4:30）	4年・5年・6年の代表委員	
22	火	勤労感謝のつどい（9:40～10:25）		
23	水	公休日（勤労感謝の日）		

【実践の風景】



(1) 取り組みの反省

今回は、児童会活動の大きなねらいである「自主的、実践的な活動を通して、連帯感、所属感をより高める。」一つの場として、この行事を通して次のことをねらいにした。

- 広報活動によって、代表委員会のような学級で取り組むことを知らせ全児童の意識を高める。
- 縦割りの兄弟学級で取り組むことにより、上級生と下級生のかかわりを強め連帯意識を高める。
- 子どもたちが自発的に自主的に取り組んでいけるように、学級での指導、話し合いをしっかりとる。
- この取り組みを通して、6年生を中心とした代表委員がより自主性、実践力を身につける。反省として、

《良かった点》

- 3組兄弟学級のように、6年生が中心になって4年生・5年生の代表委員と意識的に取り組み、低学年の世話・仕事の確認等を進めていったので、他の学級の6年生にも意識づけとなり、全体的にいい雰囲気の中で取り組みが進められた。
- 兄弟学級としての本格的な取り組みはこの行事が初めてであるが、上級生と下級生のいい関係やリーダー性を育て、責任感、思いやり、連帯感、実践力を育てることができるので、何度か回を重ねることによってその効果がでてくるものと思う。
- 歌やゲーム・ダンスの練習時に、5・6年生がリーダーとして活動する場面があり今後の取り組みに生かせそうである。

《反省点》

- 行事への参加は楽しいが、ねらいや方法等の理解が不十分であったのか児童個々の意識が薄く、積極的な態度が不足だった。
- 場の設定をもっと工夫する必要があった。発表を見たり聞いたりできるような場づくりは集会を盛り上げるときとても重要であるので、検討して望む必要がある。
- 行事への取り組みは、学級での教師の指導と共通理解がなければ進められるものでなく全児童と児童会が一体となって創り上げるものであるから、教師の支援が大きな励みとなる。

など、反省点が多々あり、内容の精選が問われている昨今であるだけに時間短縮の上からも教師のかかわり方や児童の意識を高める指導のあり方が重要である。これらのことを次からの兄弟学級取り組みに生かしていきたい。

2 「学校をきれいにしよう」の取り組み

(1) 取り組みのねらいと方法

— ゴミ拾い朝会で学校をきれいにしよう —

① 提案理由

12月は、一年の締めくくりの月です。全校児童で校内をきれいにし、新しい年を迎えるようにしたい。

② ねらい

- 一人一人が、自分たちの学校をきれいにし、新年を迎える気持ちを持つ。
- 「捨てない」「汚さない」「散らさない」の気持ちを育てる。

③ 取り組み日時

12月20日（火）8:15～8:35 児童朝会

④ ゴミ拾い分担場所

- 1年生……校門と低学年玄関前
- 2年生……宮城の森
- 3年生……教材園周辺
- 4年生……体育館周辺とゴミ捨て場
- 5年生……図工室の裏側と高学年玄関周辺
- 6年生……運動場とその周辺

⑤ 方法

ア ゴミ袋は、各学級で準備する。（各自の袋は、買い物ビニール袋を持ってこさせる。）

イ 各学年とも割り当てられた場所のゴミを拾い、袋いっぱいにして口を縛り、集まった袋の数を数える。（各学年の先生で）

ウ 袋の数調べ

- 袋いっぱい入っているものを1とみる。
- 袋半分くらいのは2つで1とみなす。
- 半分にも満たないものは4つで1とみなす。

エ 数調べの済んだゴミの入った袋は、各学年でゴミ捨て場まで持って行って処理する。

オ 調べた数は、児童会役員に報告する。

⑥ プログラム

ア 集合（学年ごとに朝会の隊形に並ぶ）……各学級

イ 始めのことば……児童会役員

ウ 朝のあいさつ……校長先生

エ 説 明……児童会役員

オ ゴミ拾い開始

- ベルの合図（ピー）
- 7分間拾う。
- ベルの合図でやめる。

- 学年の先生方にチェックしてもらおう。
 - 集めたゴミはゴミ捨て場に持っていく。
 - 終了合図は、各学年とする。
- カ 終わりのことば（放送で行う）……………児童会役員
 ※終わりは集合しないで、各学年で終わり教室へ

(2) 兄弟学級で取り組む意義

この取り組みは、兄弟学級取り組みとして簡単に組織でき、競争しながら楽しく活動できるものの一つで、取り組みに時間を要さないのが短期間でも小集会でも取り組める利点がある。このような取り組みは児童会活動の中にたくさんあり、高学年がリーダー性を高めながら力をつけていくのに適当である。

児童の人間形成に必要な集団活動を通したいろいろな体験は、兄弟学級取り組みによって児童個々に協調性、社会性を育て、人間として必要な様々なことを身につけさせてくれる。また、自主性や連帯感、実践力を培い高めていくのに欠かせないものである。

兄弟学級取り組みによって培われた連帯感や実践力は、委員会活動や学級活動に生かされ各教科の授業にも地域での活動にも生かされていくもので、児童個々に大きな自信となり積極的な態度を身につけさせてくれる。

このような取り組みを今後も機会あるごとに取り入れることによって、児童会行事で楽しく豊かな学校生活をつくりだしたい。

(3) 反省

二学期末のせわしさの中で行われた行事であったが、各学年ともどの児童も一生懸命頑張っており、わずか7分の間にゴミ袋の山があちこちにでき、ゴミ捨て場は入りきらないほどであった。また、ゴミ捨て場の周辺が分担場所になっていた4年生たちは、その周辺を整理するのに大変だったようである。

<反省として>

- さわやかな汗を流した子どもたちは、満足そうな顔をして教室へ帰っていき楽しかったという声が聞かれた。
- 時間をかけずに簡単に取り組める活動で、子どもたちも主体的に働くことができたし、活動の結果がすぐあらわれたのもよかった。
- 兄弟学級で取り組まれていれば、子どもたちの姿勢も違い活動にももっと活発さがでたと思う。
- 取り入れた時期がよく、子どもたちにも受け入れられやすかった。

など、各委員会の取り組みとしても、具体的なねらいと方法が工夫されていれば活動の効果は大きいし、児童の要求を取り入れた楽しく活気のある取り組みができるので、今後もこのような自主的な活動を各委員会が主催して取り組み、活気ある集会にしたい。

VII 研究のまとめと今後の課題

1 研究のまとめ

長年かかわってきた児童会活動であったが、いざ、整理しまとめてみようとするとうろたうことのできることにビックリしてしまった。研修期間にやりたかった幾つかの課題の解決に少しでも近づくことができているならば、それが、今研究の大きな成果である。

その成果を上げてみると、

- ① 学校教育における児童会活動の役割・意義を明らかにすることによって、児童会活動のあり方やその重要性をあらためて確認することができた。
- ② 児童の人間形成と児童会活動のかかわりの深さ、地域で培えない体験的な活動をも担っている必要性を認識することができた。
- ③ 児童会活動の指導形態と効果的な運営方法の工夫によって、リーダー性を高める積み重ねのある指導ができるものと期待できる。
- ④ 兄弟学級取り組みが自主性、連帯感、実践力を培ううえで効果的な意義をもつものであることがわかった。
- ⑤ 評価のあり方を明らかにすることによって、次の取り組みへの手立てがみえ生かされていくことが確信できた。
- ⑥ 児童会活動は全校集団活動なので、全教師の共通理解と指導・支援の重要性を確認し合い、それを取り入れた計画案の作成で全児童が楽しく実践できる活気ある活動を創りたい。など、これまで必要性や重要性を感じながらも理論的な位置づけができず、計画案を立てる時その中に織り込めない部分が多々あった。

この研究で、特別活動を見直し児童会活動のあり方・指導形態が明らかになったことで、児童の人間形成に寄与する重要な役割をもつものであることから、今後も、内容の精選を進めながら取り組みを工夫していきたい。

また、全児童が楽しく参加でき、人間関係を深めるなかで自主性、連帯感、実践力を身につけることのできる児童会活動を目指していきたい。

2 今後の課題

年中忙しく時間的な余裕のない学校教育のなかで、児童の人間形成に重要な役割をもつ児童会活動を、教育課程のなかにどのように位置づけて取り組んでいくのか課題はたくさんある。

この研究で明らかにされなかった課題や不十分な課題として、

- ① 代表委員会の代表の組織づくりが難しくなり、代表委員がいいリーダーとして育ちにくい。(放課後の活動であるために、塾や習い事をする子が増えてきたがらないので、交代制をとるところが多い。)
- ② 全校活動であるだけに、教師の姿勢、指導のあり方も大きな役目をもつことになるが、忙しさのあまり共通理解を図ることが難しい。
- ③ 忙しい学校の中で、学級担任をしながら児童会活動の指導にあたるのは時間的に厳しいものがある。

(計画案づくり、企画委員会の指導、代表委員会の指導、実践までの取り組み指導とやらなければならないことがたくさんあり、時間の補償がない。)

④ 教育課程の中に、活動の時間をどう位置づけていけばよいか。

⑤ 児童会と各学級との連携をとることは活動を活発にする上で重要であり、教師間の連携を密にしながら取り組みを進めていくことが大切であるが、時間的に難しい面がある。など、まだまだ課題は多く、この研究でやりたいことはたくさんあったが、集会活動に絞ったためにほんの一部しかまとめることができなかった。

これからやらなければならない年間活動計画と各活動の計画案をこの研究での成果と結びつけながら、今後も効果的な運営を生かした児童会活動を進めていきたい。

《参考文献・引用文献》

- 『自己教育力が育つ授業 デューイ教育学の展開』 松浦美朗 著 日本教育研究センター
『新旧学習指導要領の対比と考察 小学校特別活動』 相川高雄 著 明治図書
『生きる喜びを育てる特別活動』 木原孝博 著 ぎょうせい
『教職課程新研究 小学校特別活動』 相川高雄 著 明治図書
『シリーズよい授業の条件11 新しい特別活動よい活動の条件』 成田國英 中島直孝 斎藤隆士 編著 東洋館出版社
『生活指導の実践構造』 木原孝博 著 明治図書
『生活教育の探求』 中野 光 著 民衆社
『特別活動と人間形成』 山口 満 編著 学文社
『小学校 新しい特別活動の指導と評価』 成田國英 岡本孝司 小池 宏 編著 教育出版
『子どもの側にたつ評価 到達目標例と評価文例集』 小川修一 志賀廣夫 行田稔彦 編著 民衆社
『小学校学習指導要領の展開 特別活動編』 成田國英 編 明治図書